

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度																
事業実施地区名 （都道府県名）	宗谷森林計画区 （そうや） （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 宗谷森林管理署																
事業の概要・目的	<p>宗谷森林計画区は、北海道の最北に位置し、天塩川広域流域のうち宗谷支庁管内の1市7町1村で構成されている。その流域面積は405千haで全道面積の5%に当たり、このうち、宗谷森林管理署は162千haの国有林を管轄している。</p> <p>当管轄区域は、高緯度地方の特色ある自然景観を形成しており、利尻礼文サロベツ国立公園、北オホーツク道立自然公園などに指定され、絶滅のおそれが高い野生生物の分布やラムサール条約登録地もあることから、レクリエーションの場としての利用とともに、野生生物の保護に対する要望が高い。</p> <p>さらに、海岸部の多くは、過去の度重なる森林火災等により失われ、未だ笹生地となっている地域が多く見られるとともに、利尻・礼文両島は、海岸線近くまで急傾斜地が迫る山地災害の危険地域となっていることから、生活環境の保全、山地災害の防止等の機能発揮が強く求められている。</p> <p>また、多くの市町村が国有林に水源を依存していることから、良質な水資源の安定供給のため、水源かん養機能の発揮が重要となっている。</p> <p>このため、自然環境の維持、国土保全、水源かん養及び保健休養など森林の持つ公益的機能の発揮等に関する地域の要請は高い。</p> <p>本事業は、これらの要請に応えながら、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備を行うことを目的とする。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">主な事業内容</td> <td style="width: 20%;">森林整備</td> <td style="width: 20%;">更新面積</td> <td style="width: 40%; text-align: right;">148 (ha)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>保育面積</td> <td style="text-align: right;">4,548 (ha)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td style="text-align: right;">36.0 (km)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>改良延長</td> <td style="text-align: right;">11.7 (km)</td> </tr> </table>			主な事業内容	森林整備	更新面積	148 (ha)			保育面積	4,548 (ha)		路網整備	開設延長	36.0 (km)			改良延長	11.7 (km)
主な事業内容	森林整備	更新面積	148 (ha)																
		保育面積	4,548 (ha)																
	路網整備	開設延長	36.0 (km)																
		改良延長	11.7 (km)																
費用対効果分析	総費用（C）	1,065,673（千円）																	
	総便益（B）	水源かん養便益	5,041,041（千円）																
		山地保全便益	1,588,738（千円）																
		環境保全便益	32,377（千円）																
		木材生産便益	1,610,811（千円）																
		森林整備経費縮減等便益	166,438（千円）																
		計	8,439,405（千円）																
	分析結果（B/C）	7.92																	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 自然環境の維持、国土保全、水源かん養及び保健休養等、公益的機能の発揮等に関する地域の要請に応えるために本事業の実施が必要である。 ・有効性： 国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、特に水源かん養機能の増加、また、地域の特性を踏まえた有効な事業と認められる。 ・効率性： 費用対効果分析の結果から十分な効率性が認められる。 <p>新規事業の採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の重視すべき機能（特に水源かん養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効率的に計画されていると認められる。</p>																		